

パイプオルガンのトリビア

～vol.2～



新教会と同時期に建造されたアムステルダムの西教会のパイプオルガン。
ベアトリクス女王の結婚式もこのオルガンの奏楽によって行われた。

今回は、バッハとアムステルダムの素敵なトリビアを紹介します。

若き日のバッハがドイツのワイマールで宮廷楽長と教会オルガニストを務めていた頃（1708～1717）の話です。若きバッハの雇い主だったヨハン・エルンスト公がこの不思議な縁をつくりました。自ら演奏・作曲も手がけたヨハン・エルンスト公は音楽好きが高じて、1711年から1713年までユトレヒト大学に留学してしまった人物でした。ユトレヒトは既にありとあらゆる音楽文化が堪能できる都市だったのです。留学生エルンスト公も、ユトレヒトからアムステルダムへも馬車で出かけたことでしょう。

ある日エルンスト公がアムステルダムの新教会の中に入ると…なんとイタリアふうの軽やかな宮廷音楽がパイプオルガンから聞こえてくるではありませんか！

ここで予備知識。バッハが活躍した18世紀の流行の最先端といえば「イタリア」。当然音楽もイタリアものが格好良かったわけで、ヴィヴァルディの協奏曲や管弦楽曲が超お洒落だったのです。ワイマールにもこんな洒落た音楽が欲しい、自分でも演奏してみたい…！早馬でワイマールの宮廷のバッハのもとにエルンスト公から熱烈な手紙が届くのです。「(アムステルダムで流行っている)パイプオルガンのための協奏曲を作曲して欲しい」と。

私たち日本人が西洋の文化やファッションに憧れるように、ドイツだけでなくヨーロッパ中の人々がイタリアに憧れを抱いたのです。当時

は飛行機でちょっと観光に…とはいきません。バッハはヴィヴァルディや自作、そしてエルンスト公が作曲した協奏曲を20曲余りオルガン曲に仕立て直しました。私もバッハのオルガン協奏曲をCDに収録しましたし、演奏会でもよく弾く曲なのですが軽やかな聴き心地とは裏腹に超絶技法が…(苦笑)。でもバッハの協奏曲は私のお気に入りの曲のひとつです。

閑話休題。バッハの協奏曲の例に見るように、パイプオルガンではいろんなジャンルの音楽を表現することが出来ます。アフリカの音楽にジャズのリズムを取り入れた楽しいオルガンの曲が沢山作曲されています。

読者のみなさんは少し不思議に思うかもしれませんが、耳慣れた旋律やノリのいい音楽をパイプオルガン作品として「仕立て直し」することによって、パイプオルガンそのものの魅力を、聴いて下さる皆さんにより深く(かつ気軽に)味わってもらうことができるからでしょう。

オランダ国歌を写真のような壮大なパイプオルガンをつかってストリートオルガンのような音色で演奏することも出来るし、バースデーソングでもいいし、ビートルズでもABBAでもポニョでもいいのです。ちなみに私なら日本の旋律をパイプオルガンの演奏に取りこみたいところ。

次号はフルートとパイプオルガンのための「春の海」誕生のトリビアです。



エルンスト公が歩いた往時を偲ばせるアムステルダムの街並み

塚谷 水無子 (つかたに みなこ)

東京芸大卒業後オランダへ。オランダ、日本を中心に活動するオルガニスト。オランダでリリースされた2枚のCD「風のささやき1・2」(キングインターナショナル)、クラシックの名作を集めオルガンの魅力の全貌に迫るCD「癒しのパイプオルガン」(キングレコード) 大好評発売中。www.minakotsukatani.com

●公演スケジュール (3月～5月) ●

2010年3月11日(木) 19:00 カザルスホールコンサート ゲスト: 青島広志
2010年3月25日(木) 12:15 サントリーホールプロムナードコンサート
2010年4月16日(金) 13:00 アムステルダム西教会 入場無料
2010年5月28日(金) 13:00 アムステルダム西教会 入場無料 ほか

